

令和5年度 姫路市介護予防事業施策評価委員会

議 事 次 第

日 時 令和6年2月22日(木)
15時30分～17時00分

場 所 姫路市総合福祉会館5階 第3会議室

1 説明・報告

- (1) 介護予防事業施策の概要について
- (2) 介護予防事業施策の実績について

2 協議

- (1) 姫路市の介護予防事業施策に関する戦略について
- (2) 今後の介護予防事業施策の運営について
- (3) その他

令和5年度姫路市介護予防事業施策評価委員会 委員名簿

区 分	所属	氏名
学識経験者	兵庫県立大学理事兼副学長	内田 勇人
保健、医療及び福祉関係者	姫路市医師会 理事	東 靖人
	姫路市歯科医師会 口腔保健センター内 歯科地域連携室	大岩 恵実
	兵庫県理学療法士会中播磨支部	小川 洋嗣
第1号被保険者		横治 久美男

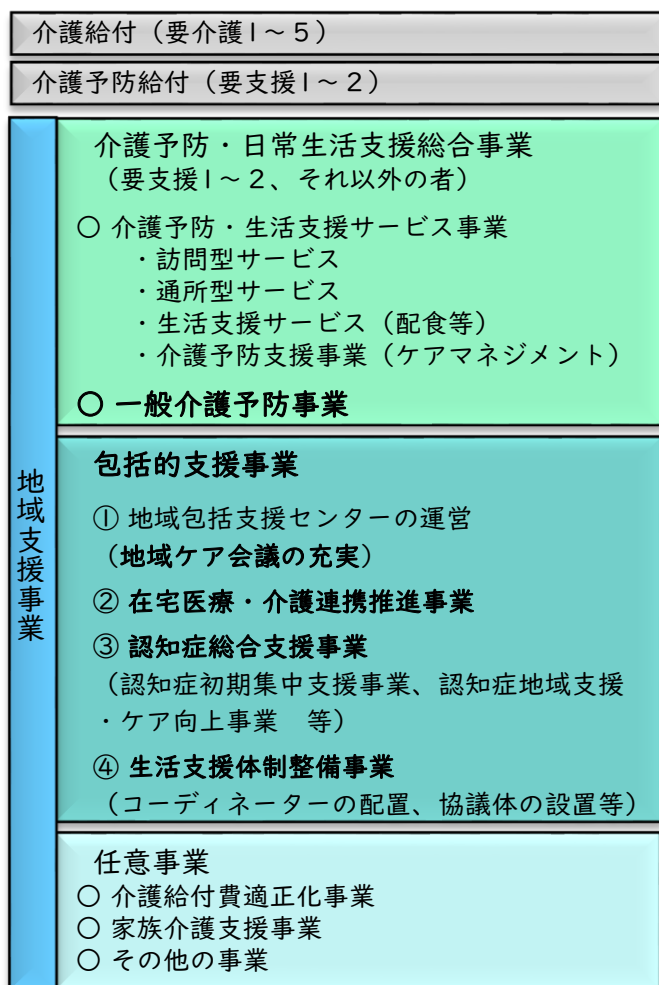
(敬称略)

令和5年度
介護予防事業施策評価委員会
説明資料

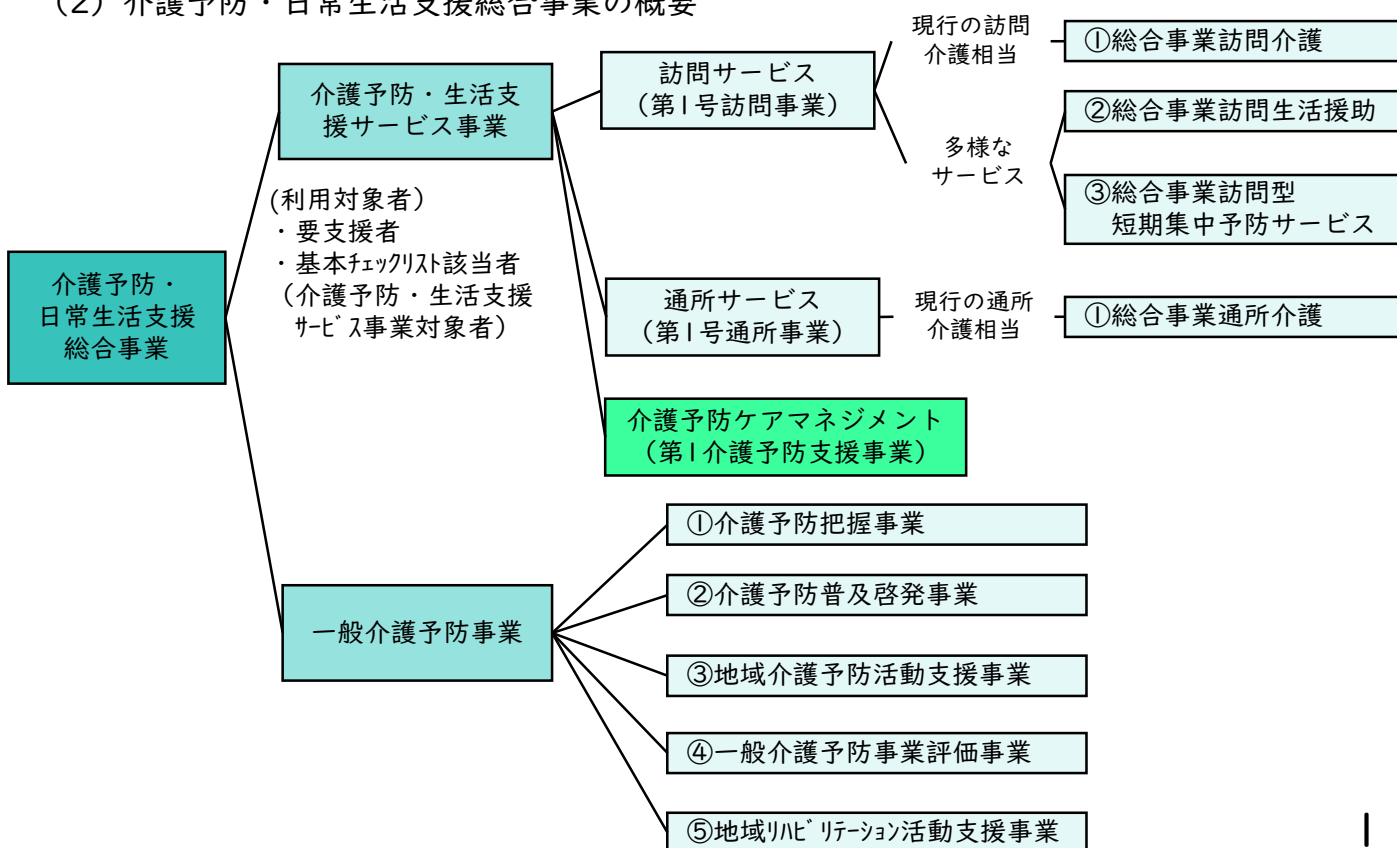
令和6年2月22日
地域包括支援課

I 介護予防事業について

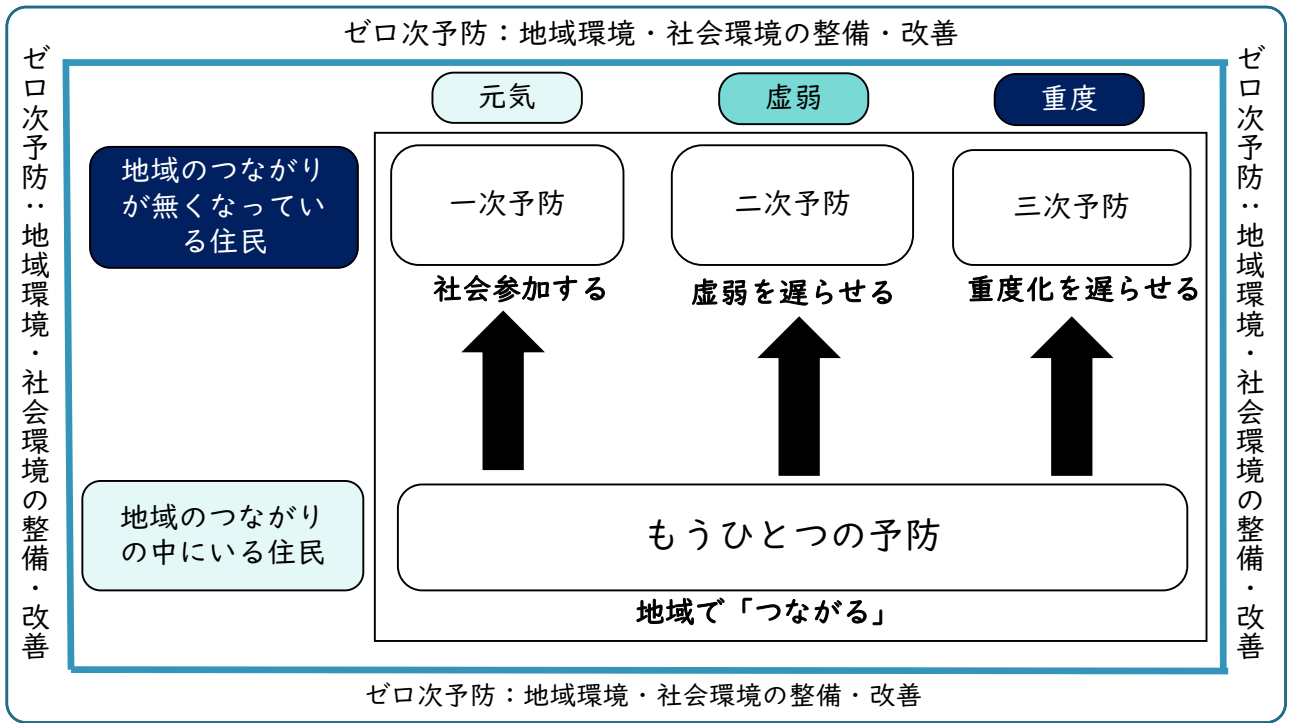
(1) 地域支援事業における介護予防事業の位置づけ <H27～>



(2) 介護予防・日常生活支援総合事業の概要



(3) 一般介護予防事業の位置づけ



(4) 一般介護予防事業の目的

住民主体の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進していくとともに、地域においてリハビリテーションに関する専門知識を活かした自立支援に資する取組を推進し、要介護状態になっても生きがい・役割をもって生活できる地域を構築することにより、介護予防を推進すること。

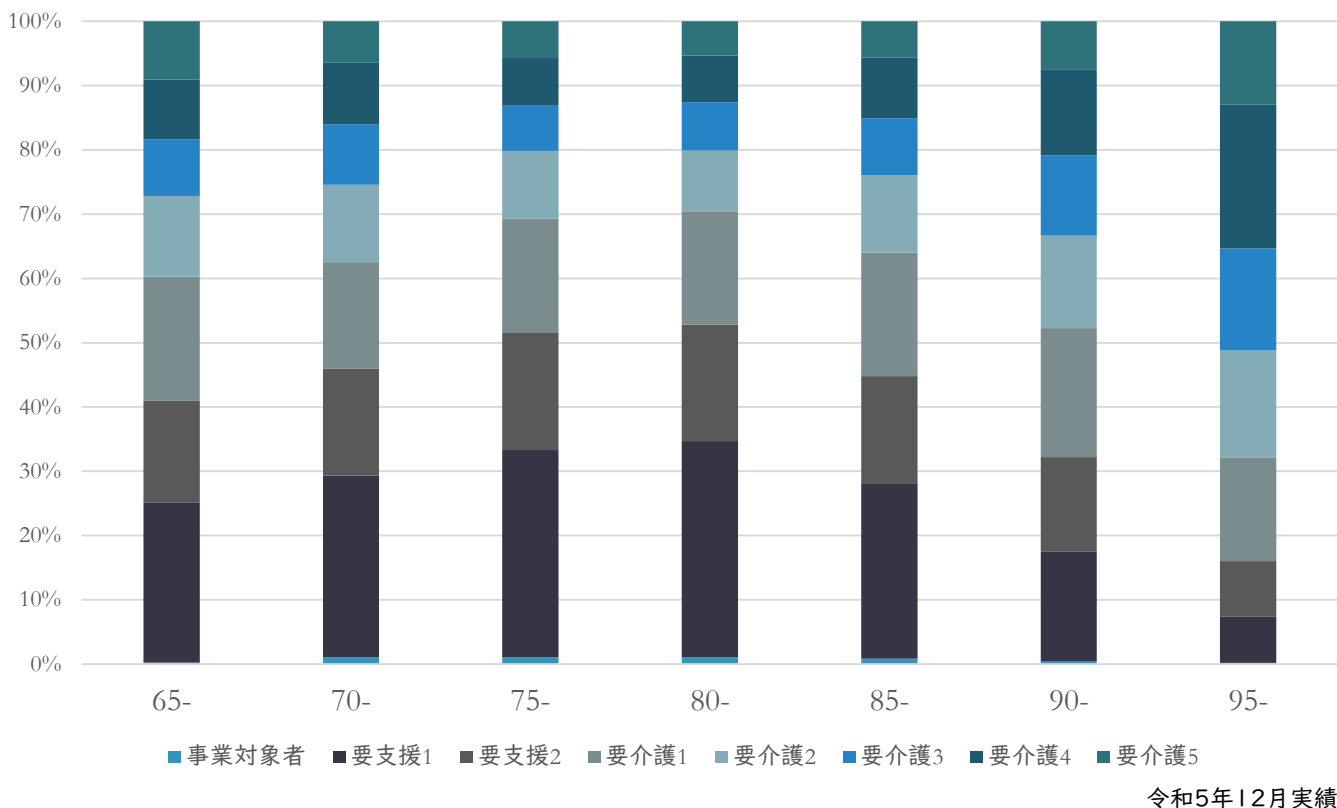
(5) 一般介護予防事業の概要

一般介護予防事業は5つの事業で構成されており、地域の実情に応じて必要な事業を組み合わせ、通いの場等の取り組みを推進している。

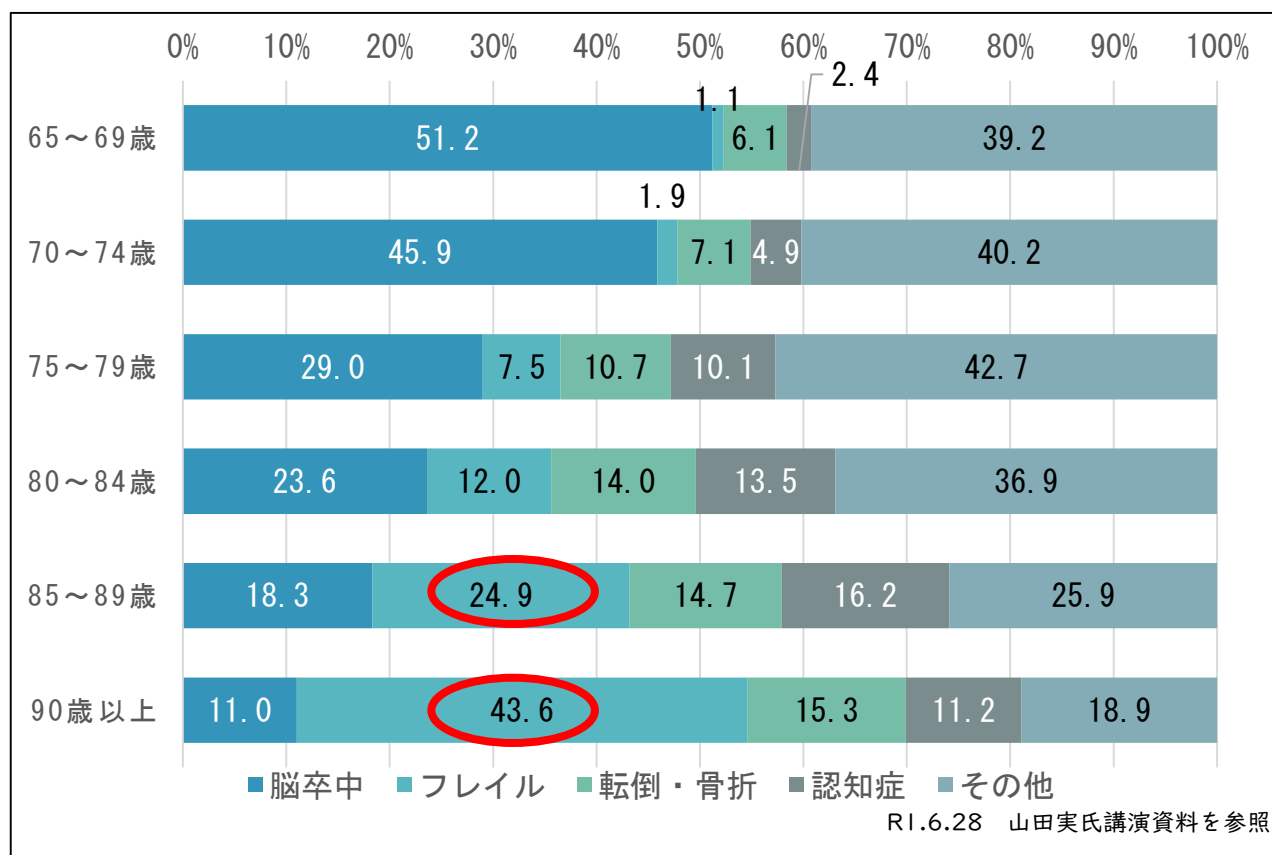
事業名	概要
介護予防把握事業	地域の実情に応じて収集した情報等の活用により、閉じこもり等の何らかの支援を要する者を把握し、住民主体の介護予防活動へつなげる
介護予防普及啓発事業	介護予防に資するパンフレットの配布や講演会の開催、運動、栄養、口腔等に係る介護予防教室の開催など介護予防活動の普及・啓発を行う
地域介護予防活動支援事業	市町村が介護予防に資すると判断する地域における住民主体の通いの場等の介護予防活動の育成・支援を行う
一般介護予防事業評価事業	介護保険事業計画に定める目標値の達成状況等の検証を行い、一般介護予防事業を含め、地域づくりの観点から総合事業全体を評価し、その評価結果に基づき事業全体の改善を行う
地域リハビリテーション活動支援事業	地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民主体の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する

2 姫路市の介護予防事業の戦略

(1) 要支援・要介護認定者の状況



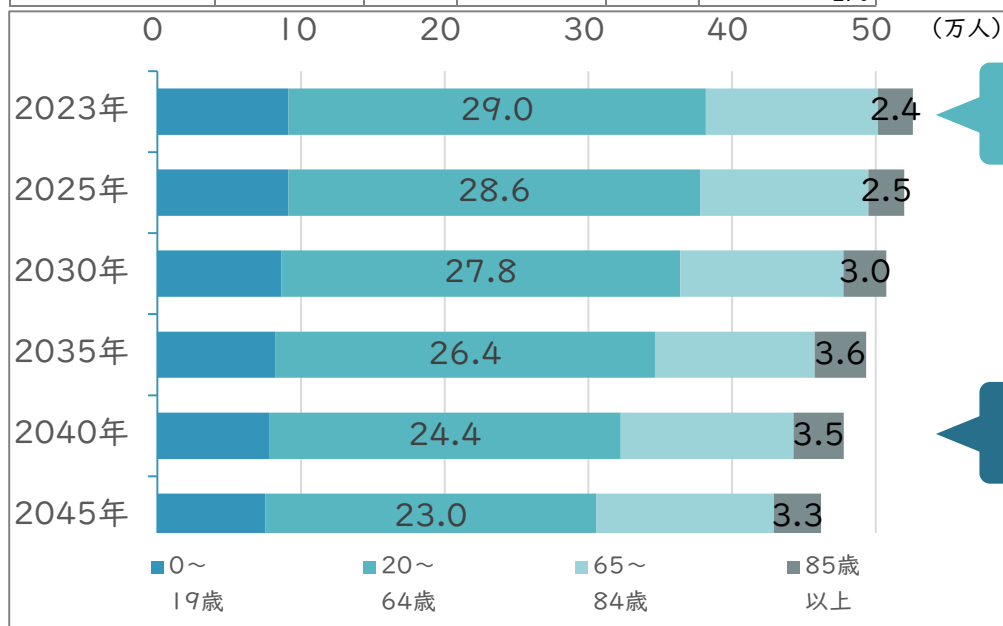
(2) 年齢階級別の要介護度の原因



85歳以上の要介護の原因は、フレイルが急増する。

(3) 姫路市の将来の年齢階級別の人口推計

	2023.12		2040		変化量
	(人)	(%)	(人)	(%)	
総数	525,884	100.0	477,813	100.0	-48,071 -9.1
0-14歳	65,793	12.5	57,806	12.1	-7,987 -12.1
15-64歳	315,927	60.1	264,600	55.4	-51,327 -16.2
65-74歳	63,358	12.0	72,987	15.3	9,629 15.2
75-84歳	56,345	10.7	47,253	9.9	-9,092 -16.1
85歳以上	24,461	4.7	35,167	7.4	10,706 43.8
再掲) 65歳以上	144,164	27.4	155,407	32.5	11,243 7.8
再掲) 75歳以上	80,806	15.4	82,420	17.2	1,614 2.0



(4) 戦略

通いの場への新規参加者を増やし、参加の中断を防ぎ、参加者が10年後も通いの場に続けることで要介護状態になる人を減らす

3 令和5年度の介護予防事業施策の実施状況

(1) 介護予防普及啓発事業

介護予防に関する基本的な知識の普及啓発を図るため、相談会、教室、地域における自主活動グループ(いきいき百歳体操)の立ち上げ支援を実施する。

① 随時開催の普及啓発

実施：保健センター・地域包括支援センター・地域包括支援課

対象：高齢者を中心とした地域住民

内容：保健師・看護師・栄養士・歯科衛生士・社会福祉士・主任介護支援専門員等による介護予防に関する講演会・相談会・教室等
運動指導士による実技指導等

年度	地域包括支援センター実施分		保健所実施分	
	開催回数	参加延人数	開催回数	参加延人数
R4年度	178回	3,404人	28回	876人
R5年12月末	373回	7,566人	40回	1300人

※いきいき百歳体操の新規グループ立ち上げ支援は保健センター・地域包括支援センターが合同で実施

②YouTube姫路動画チャンネルに姫路版いきいき百歳体操を掲載

③介護予防自主活動支援（いきいき百歳体操の立上げ支援）

実施：保健センター・地域包括支援センター

対象：高齢者グループ

開催場所：自主活動参加者の居住地域（自治会等の集会所・公民館・自宅等）

内容：高齢者が身近な場所で仲間と集まり活動できる自主活動として、活動支援を行っている。

住民主体の活動だが、住民同士がお互いを見守りあう互助的活動に発展することを目指している。

	R2	R3	R4	R5(12月末)
参加者実人数	7,760人	7,362人	7,612人	8,003人
グループ数	473か所	470か所	476か所	483か所
高齢者参加率	5.4%	5.1%	5.3%	5.6%

④認知症サロン

令和2年度から閉じこもりや社会的孤立の予防のために、認知症サロンの運営支援を強化しており、地域の通いの場となっている。

	R3	R4	R5(12月末)
登録者数	2,778	2,876	2,893
グループ数	93	95	95

⑤地域包括支援センター毎の通いの場(いきいき百歳体操)の活動状況

	登録グループ数	高齢者千人当りグループ数	参加実人員	高齢人口	参加率	登録グループ数	高齢者千人当りグループ数	参加実人員	高齢人口	参加率
白鷺・琴陵	18	2.5	245	6547	3.7	19	2.9	266	6544	4.1
城乾・東光	30	3.2	475	8248	5.8	30	3.6	501	8222	6.1
山陽	18	2.0	426	9014	4.7	20	2.2	478	9101	5.3
高岡	10	1.6	127	5522	2.3	10	1.8	209	5529	3.8
安室	13	2.1	197	6201	3.2	12	1.9	143	6223	2.3
花田・城山	17	3.7	238	4626	5.1	17	3.6	222	4662	4.8
四郷・東	13	1.9	251	6286	4.0	14	2.2	299	6254	4.8
書写・林田	15	1.7	306	7587	4.0	16	2.1	363	7543	4.8
大白書	18	3.2	282	5391	5.2	18	3.3	267	5449	4.9
灘	23	3.2	394	6812	5.8	23	3.4	364	6864	5.3
大的	31	7.1	352	3939	8.9	29	7.4	314	3925	8.0
飾磨西	24	3.1	292	6668	4.4	25	3.8	327	6648	4.9
飾磨	29	3.5	454	7797	5.8	29	3.7	464	7807	5.9
大津	21	2.4	289	6626	4.4	20	3.0	264	6636	4.0
広畑	27	3.0	440	8486	5.2	29	3.4	499	8512	5.9
朝日	23	3.0	323	7301	4.4	23	3.1	569	7350	7.7
網干	10	2.1	224	4632	4.8	10	2.2	198	4616	4.3
増位・広嶺	28	2.7	452	9770	4.6	26	2.7	429	9803	4.4
北	35	5.3	666	6460	10.3	35	5.4	637	6474	9.8
香寺	30	4.8	596	6198	9.6	30	4.8	559	6226	9.0
夢前	33	5.3	460	6235	7.4	34	5.4	493	6268	7.9
安富	8	5.0	86	1613	5.3	9	5.5	105	1632	6.4
家島	2	0.5	37	1865	2.0	2	1.1	33	1876	1.8
計	476	3.3	7,612	143824	5.3	480	3.3	8003	144164	5.6

(2) 地域介護予防活動支援事業

地域活動組織の育成・支援や、介護予防に関するボランティア等の人材養成のための研修を行う。

①いきいき百歳体操グループへの継続支援

地域包括支援センター・保健センターが各グループへの活動支援を行っている。

令和3年度より参加者に対して15項目の質問票を（フレイルチェック票）を実施し、フレイル予防の啓発を実施しており、必要なグループへ、歯科・栄養士・運動指導士による健康教育を実施している。

生活機能の低下によりいきいき百歳体操への参加を中断し者に対して、個々の状況を把握し必要な支援を行い、再度参加できるように支援を行っている。

【質問票の実施状況】

令和4年度	341グループ	4,079人
令和5年12月	341グループ	4,315人

【健康教育の実施状況】

令和5年度（12月末）	栄養士	歯科衛生士	運動指導士	薬剤師
地域包括支援課	0回	3回	20回	-
後期高齢者医療保険課※	1回	13回	-	8回

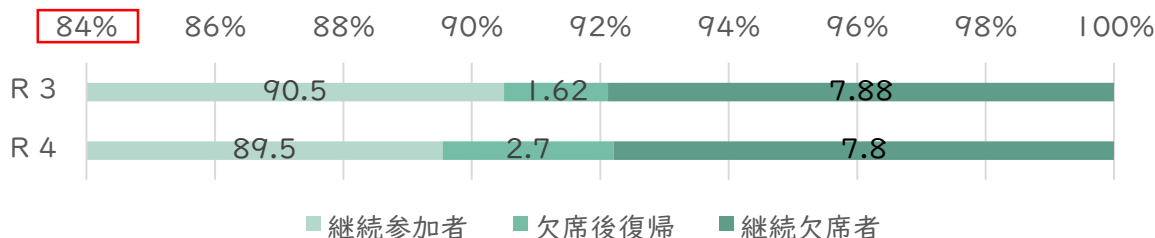
※高齢者への保健事業と介護予防の一体的な実施としての取り組み

【いきいき百歳体操交流会の実施状況】

令和4年度	コロナウイルス感染予防のため実施なし	
令和5年12月	6回	193人

- ・他グループの活動がわかり、意欲向上につながった
- ・世話役同士で悩みを共有し、世話役の支援ができた
- ・体操の説明を聞き、何のための体操なのか理解できた

【通いの場の継続支援】



②地域リハビリテーション活動支援事業

いきいき百歳体操参加者で、身体の使い方の改善で予防できる転倒・骨折や関節痛の悪化などにより中断する可能性がある者へのリハビリテーション専門職による相談と助言を行っている。

年度	実施グループ数	相談者数（人）
令和3年度	2	5
令和4年度	4	8
令和5年12月末	2	5

③通いの場参加ポイント事業について

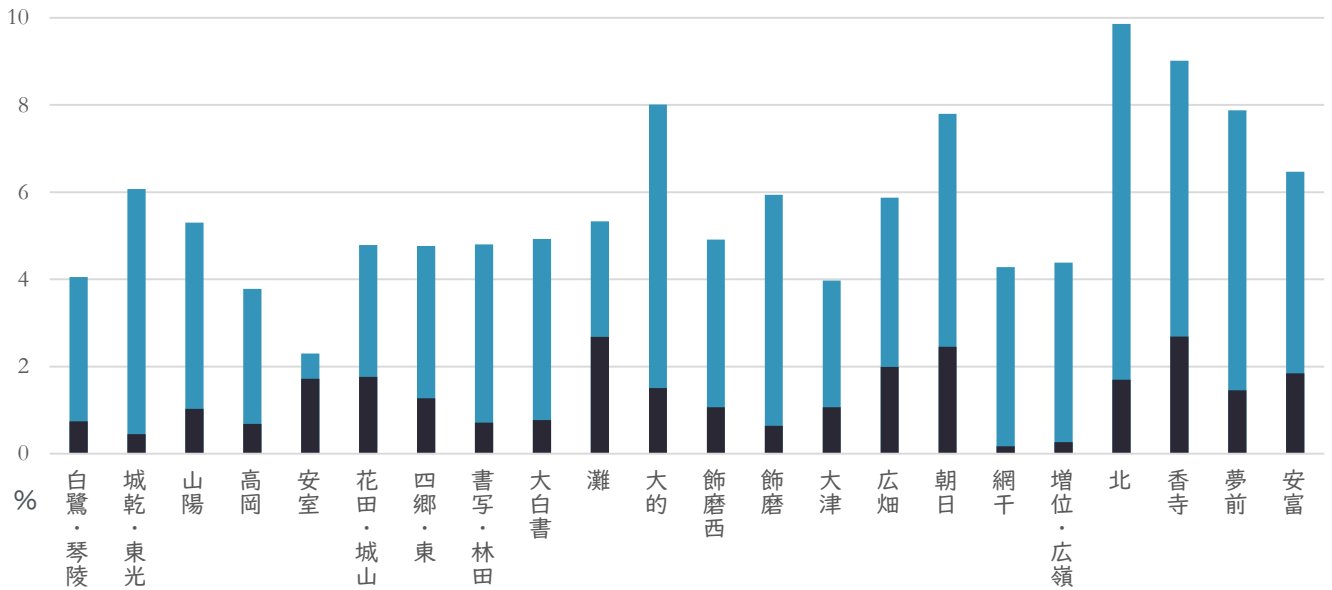
いき百の新規参加者の拡充と継続支援を行うため、いき百に参加した40歳以上の姫路市民にひめじポイントを付与する。

週に1回参加で50ポイント、お世話係は更に50ポイントを付与し、年間付与上限は3000ポイントとする。

R5.4月～R6.1月（10か月間）の集計結果

参加数	ポイント取得	参加回数
グループ数：245（全体の50%）	総取得：277万P	一人あたり：22回
総参加者：1796人（全体の22%）	→一人あたり：1,541P	ひと月あたり：2.2回
お世話係：4.5人/1グループ		
参加者：7.3人/1グループ	参加のみ：197万P	
（参考）全参加者は16.6人/1グループ	→一人あたり：1,098P	

ポイント事業 地域別の参加状況（家島は参加者0のため集計から除外）

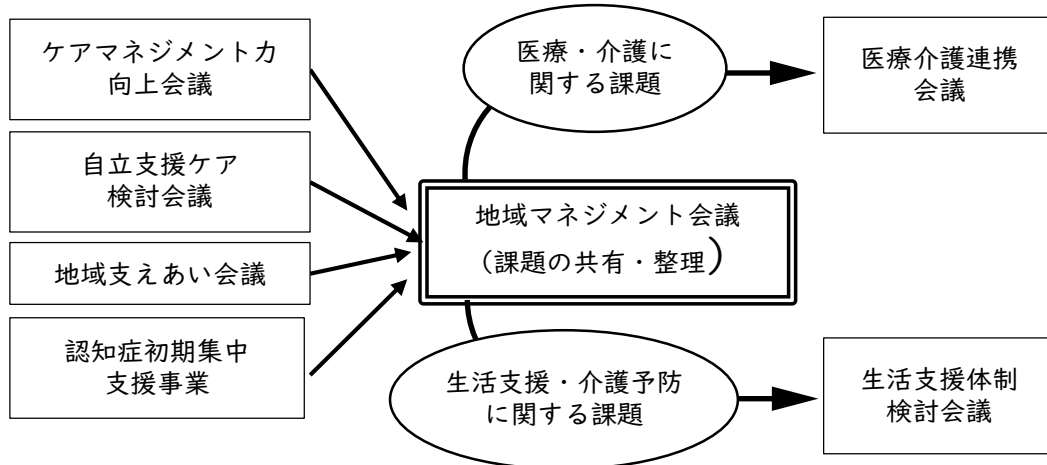


■ 地域別高齢者人口に占めるいき百参加率 ■ 地域別高齢者人口に占めるポイント事業参加者数

ポイント事業参加者の意見

- ・ポイント事業によって参加者が増え、グループが活気づいた。
- ・いきいき百歳体操参加を長らく続けていたが、ポイントが付与されることで活動にやりがいを感じた。
- ・新規にいきいき百歳体操参加をする方へのPRとなった。
- ・いきいき百歳体操参加者が、使い慣れないスマホを使えるようになった。
- ・スマホを使うと頭をよく使うので、認知症を予防する効果を感じる。
- ・高齢者がスマホを使うのは難しく、負担がある。
- ・スマホを持っている人、持っていない人でグループが分断されてしまった。
- ・長年代表を務めているが、スマホを持っていないために参加できず、残念に思う。
- ・ポイント事業に参加出来ないことが原因の1つとなり、いき百をやめた人が2人いる。（23包括全てに聞き取りした結果）
- ・好みのポイントに交換できない。

(3) その他、通いの場の拡充に向けた取組み



生活支援体制整備事業の活用

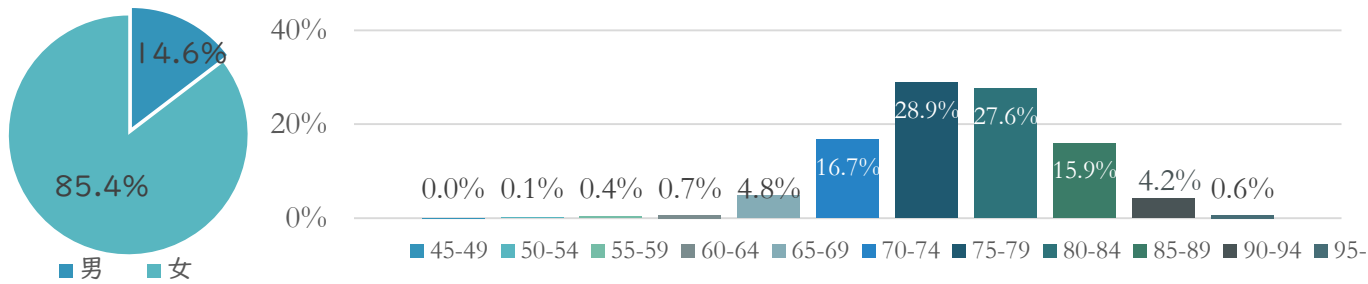
地域包括ケアシステムの実現に向け、生活支援・介護予防を一体的に実施するために、支援の担い手として高齢者が地域活動に参加することで、健康づくり・生きがい・介護予防となること。

また住民が主体となり地域のつながりや支えあいを強化し、高齢者が孤立せずに安心して暮らせる社会を築くことを目指している。通いの場の継続や必要性についても協議しており、生活支援体制検討会議から通いの場が立ち上がった地域もある。

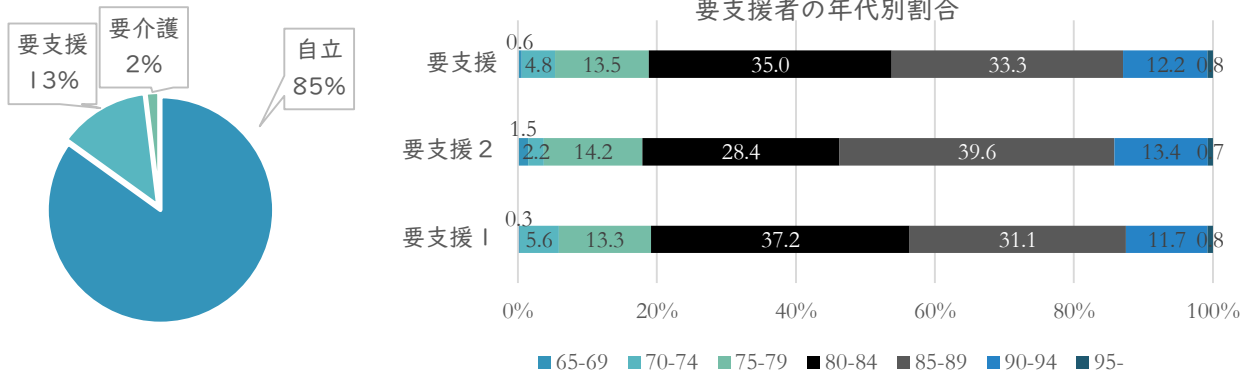
4 令和5年度 姫路市の取り組み

(1) R4年度の通いの場参加者4079人に実施した質問票データの分析

①通いの場参加者の男女比と年齢構成

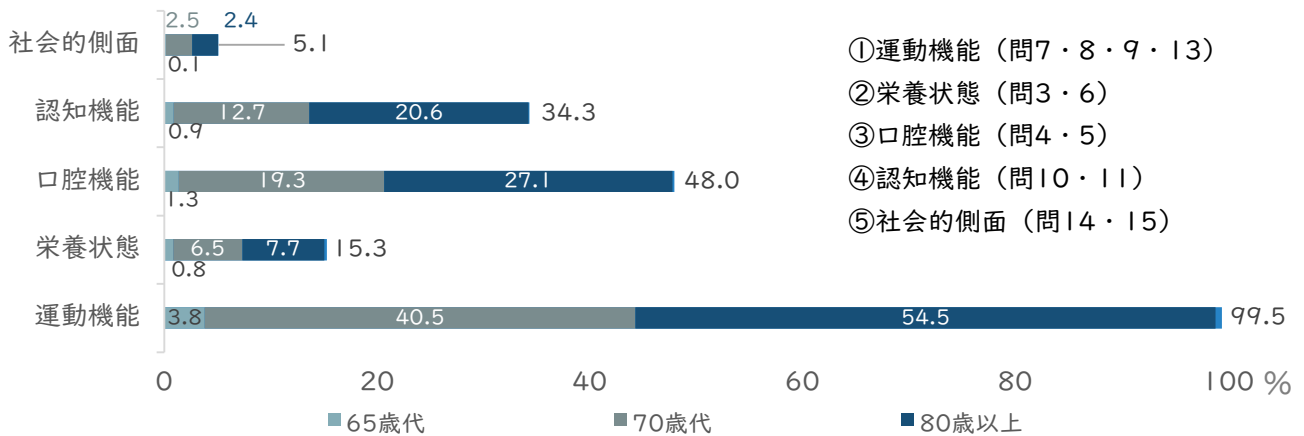


②通いの場参加者の要支援・要介護認定状況について



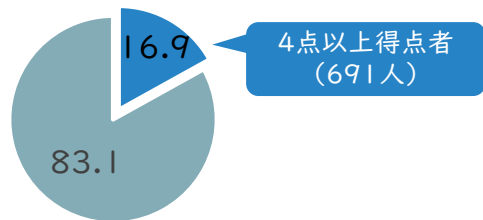
③フレイルリスクについて

5領域の各項目に1つ以上得点した者

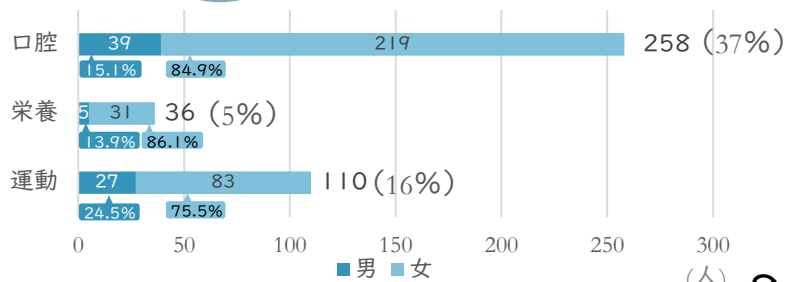


質問票回答者4079人のうち、5領域の12項目から4点以上得点したハイリスク者

- ①運動機能 (問7・8・9・13)
- ②栄養状態 (問3・6)
- ③口腔機能 (問4・5)
- ④認知機能 (問10・11)
- ⑤社会的側面 (問14・15)



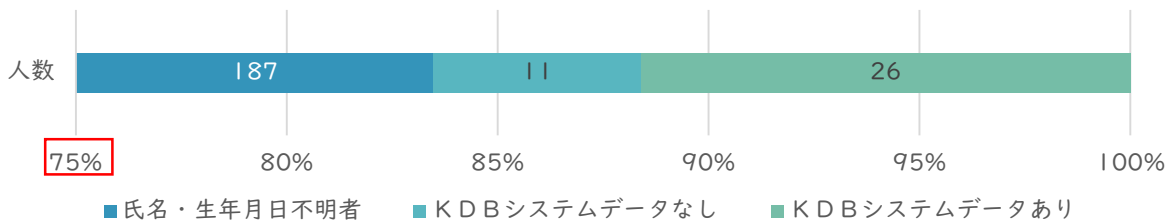
	質問票実施数	4点以上人数
人数	4079	691
割合	53.5 (分母: R4年度の参加者7612人)	16.9 (分母: 4079人)



4点以上得点かつ各領域の項目に全て該当した者

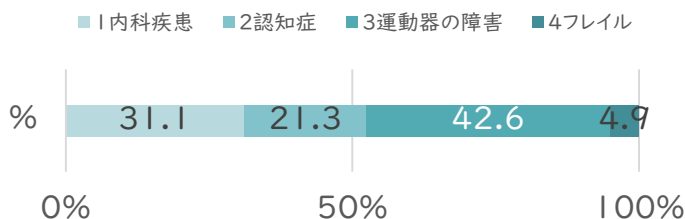
(2) 通いの場長期欠席者の調査について

①取得データ（224人）の内訳

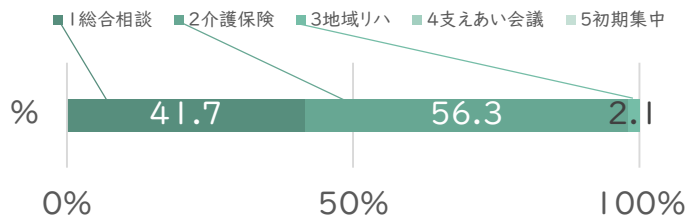


②調査結果について

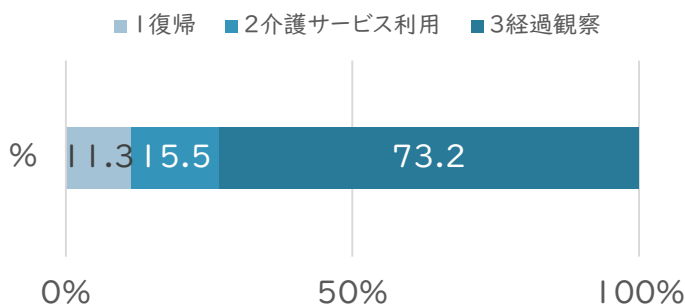
欠席理由(有効回答人数:61人)



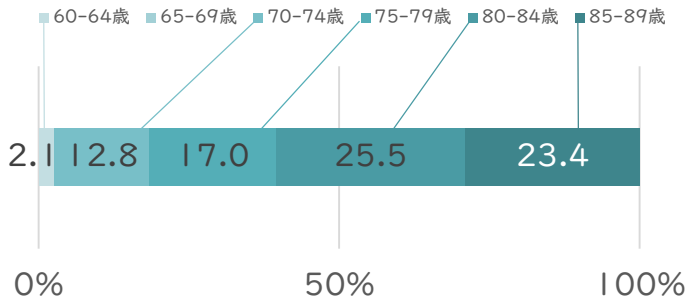
包括の対応(有効回答人数:48人)



結果(有効回答人数:61人)

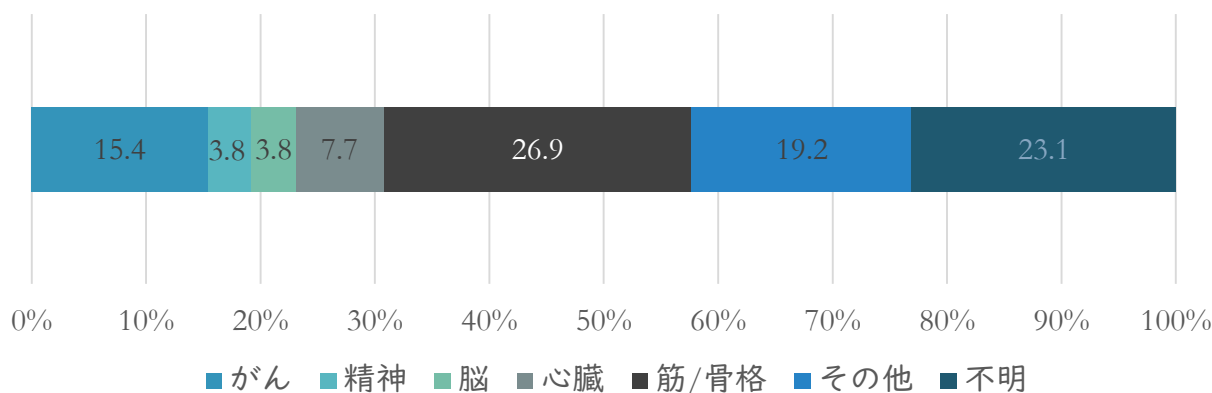


年齢(有効回答人数:47人)



※欠席理由・対応・結果で「その他」と回答した人の割合はいずれも70%以上

③長期欠席に入った際の疾患（KDBシステムより把握できた26人のデータより）



▼
腰椎圧迫骨折、椎間板ヘルニア、大腿骨頸部骨折等

5 令和6年度の介護予防事業施策の運営方針

- ・運動機能にリスクがある人へのアプローチ
- ・口腔、栄養指導の積極的な活用促進
- ・いき百を除く地域の通いの場を詳細に把握する